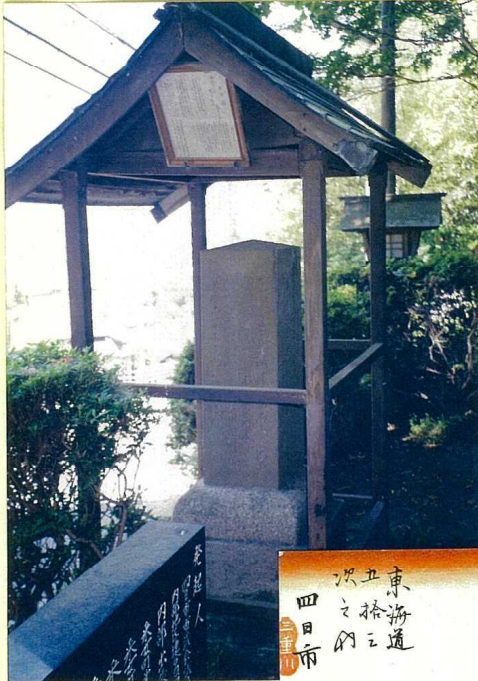


# 環境教育「まず、今できることから」

## 歴史に学ぶ

発行所：地域環境活性化協議会  
編集者：代表幹事 高橋 賢一  
連絡先：市民活動支援センター  
尾張旭市渋川町三丁目5番地7  
(渋川福祉センター内)  
TEL 0561-51-2878

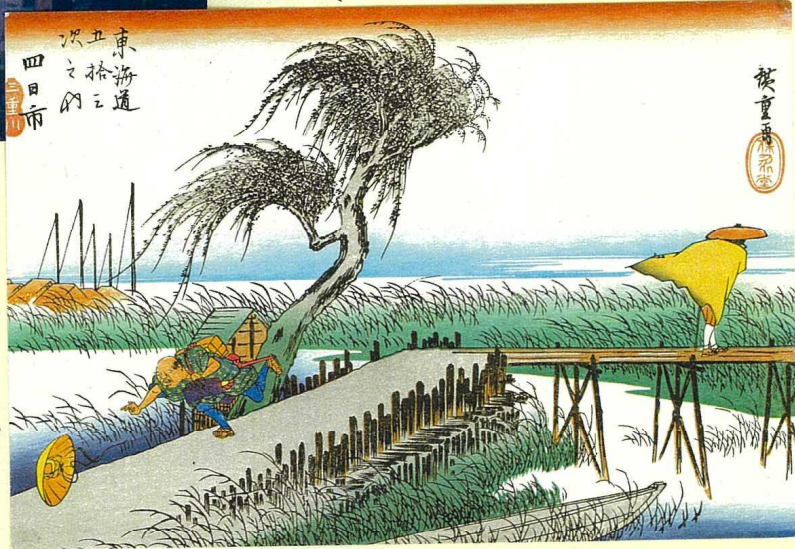


### 東海道五十三次

江戸より四十三番目の宿

### 四日市

湊町として伊勢参詣道の分岐点として栄えた四日市宿。いまでは三重県最大の都市であり、東海道と石油化学工業などのコンビナートが立ち並ぶ工業都市である。なかしいなが餅の味にほろこませらぬ。いまでは大きな煙草や石油タンクが並ぶりと並ぶ港町もその昔はうららかな湊で、諸国の物産の集散地であった。また四日市の名物として「扇気持」がある。いまでも、まれに沖行きの舟の船影が浮かび、逆さに見



東海道五十三次 四日市

被重 扇気持

えたりすることがあるそうです。  
▲国道の橋をわたり、石碑にあらんで左手に参道を行くと、芭蕉句碑、古く建物の破る集落に「なほ杖き坂をいり、そのまきか杖衝落鳥かき」坂のほりこませらぬ。日本武尊が剣百杖がけりにして越えたと、急な坂道。坂の途中に



日永の追分 八名物のつまじもの  
旧道が国道と合流する 創業大文一丸年  
とうが伊勢参詣道との 二五五〇の老舗  
分岐点の、日永の追分。右の餅は細長、軽いけが、かつお中、かが伊勢道にあたる。三本の餅が入ると、道路の中州のとうが伊勢、その形から武運の神宮二の鳥居や東海道、長さは辛先まじと、行く人も鳥居に神宮を縁起をかいたもの、遠拝して、道と分かれる。